

「貝塚市立小学校の給食運営方針」に関するパブリックコメント結果

募集期間：令和5年3月13日（月曜日）から3月27日（月曜日）

募集方法：郵送、ファックス、Eメール、持参

提出人数及び意見数：15名、15件

提出されたご意見及びそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

番号	提出されたご意見	市の考え方	対応結果
1	<p>学校給食のこしてほしいです。 私も子ども時代、給食を作ってくれている匂いが大好きでした。小学校時代の思い出として今も覚えています。</p>	<p>貝塚市立小学校の給食運営方針は、児童数の減少や給食施設の老朽化が進む現状を踏まえ、今後も限られた予算内で必要な教育環境を維持し、子どもたちに安全でおいしい給食を提供するため、策定しようとするものです。 今後は給食施設の築年数が50年を超え、かつ食数が300食を下回る学校について、自校方式に代わる給食の提供方法の導入を検討してまいります。方針にも記載しているとおり、調理員との交流やさらなる食育の推進などの取り組みを行いながら、ていねいに進めてまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
2	<p>現在小学2年の息子は、給食が大好きです。 食べることはほんとに大切なことです！ コストで計れることではないと私は思います。 現在のままやと不安があります！反対です！ 学校プリント配布してもっと内容を保護者や子育て世代に伝えてから進めてほしい。 移行するなら給食のクオリティを向上させてほしい。 変える前に児童の意見や保護者の意見を聞く機会を平等に与えてほしい！ コスト優先ではなく、子ども優先で考えてください。</p>	<p>1に同じ</p>	<p>原案どおり</p>
3	<p>草案に反対します。子どもたちに温かい給食を食べさせてあげたい！小学生にとって食はとても大事なもので配送された冷えたお弁当を食べさせることは絶対にやめていただきたい！わが子は勉強も体育も好きではなく学校が楽しいとあまり感じないようですが、給食だけは楽しみにしています！それが給食もおいしくないと、不登校になってしまう可能性があるくらい給食は子どもにとって学校に行くモチベーションになっています。老朽化しているなら、新しくしてください。そのお金は無駄ではありません。意味のあるものです。</p>	<p>親子方式は、近隣の学校の給食室で調理した給食を、保温性の高い密閉食缶で運搬し提供するもので、これまでどおり教室で食器に配膳した、温かい給食を喫食していただきます。メニューも全市で同じものを提供します。</p>	<p>原案どおり</p>

4	<p>少子高齢化により、各小学校児童数の減少、いずれ学校給食の在り方等議論せねばならないと思っております。</p> <p>学校給食は小学校児童にとっては大変重要な子供教育に非常に大事なことだと思っております。給食のおっちゃん、おばちゃんが昼食を作って下さって有難う。感謝の心が育む大事な授業のひとつだと思っております。</p> <p>児童が減少して給食を作る数も減少、給食費頂くのも減少こういう状況が続くと当然、なにがしの対策を考えるのは当然のことであり、世間では直ぐに考えつくのはセンター方式、1ヶ所で作成して学校ごとに配付してまわる。これでは食に関する感謝心は生まれてこない。</p> <p>給食センターで7割作成3割学校給食で作成とか、卒業生の方に聞いても昼食当番給食室まで取りに行っておじさん・おばさん有難うと思う気持ちは今でも忘れません。ただ、赤字対策解消のみの対策案ではもう一つかなと思いますので 子供の心も考えて行って頂きたいです。</p>	<p>11に同じ</p> <p>また、給食に関わる人々への感謝の気持ちを育む食育を進めることにより、食全体に対する感謝の心を育ててまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
5	<p>給食室の横を通ると、子どもの姿を見かけた職員さんが「給食食べてくれる？」「いつもありがとうね」と声をかけてくれ、顔を知ってる人が作ってくれているという安心感を感じています。</p> <p>顔を知ってるからこそ、食器の返却に行くからこそ、やり取りもあったのだろうなあと思います。</p> <p>今後の親子式だと、そういうこともなかなか難しいだろうし、今日の給食、この匂いは何かな、と(匂いを感じることも食育だと思います。)感じることもないのは、残念に思います。</p> <p>泉大津の友だちによると、市長が変わって、有機食材の日も増えて、パン食の日は月に2、3回に変わったそうです。物価が高騰して、食材の調達が大変、今まで取引していた業者さんを変えることは出来ない、等々あるかもしれませんが、それは大人の事情です。</p> <p>食べる子どもの事を真ん中に考えて、食材の質も考えて欲しいです。</p> <p>米飯給食に変えると、子どもが落ち着いて授業を受けるようになった、幕内秀夫さんの本で読みました。</p>	<p>11に同じ</p> <p>現在、小中学校給食の食材は、品質の良い安全なものを選択し、給食室で衛生的に調理しています。ご飯は、国産のコシヒカリや、新米の時期には化学肥料や化学農薬を低減したエコ米の貝塚産ひのひかりを使用しています。</p> <p>有機食材は導入していませんが、パラエティに富んだ献立を考え、児童にとって好きな物ばかりではなく、いろいろな種類の食材を使うよう取り組んでいます。</p>	<p>原案どおり</p>
6	<p>この草案に関して、親子方式から移行した後、センターはどこにいくつ作るのか？給食の質は保てるのか？など不安があります！</p> <p>そして、もっと内容を保護者や子育て世代にも伝えてから進めてほしいと思います！</p> <p>また当事者である児童の意見や保護者の意見を聞く機会を平等に与えて欲しいです！</p> <p>また子どもの数が減って来たのであれば給食のクオリティーを向上させてほしいです。具体的にはもっと地元物を使って欲しいです！お米も貝塚市のお米を使って欲しいです！</p> <p>泉大津市ではオーガニック給食導入されています。</p> <p>調理員さんの雇用も守ってほしいです！また納入業者の契約も守ってほしいです！</p> <p>食べる事はほんとに大切な事です！</p> <p>コストで計れる事では無いと私は思っています。子ども達の学校生活の中でも給食はほんと出来る豊かな時間であってほしいなと思います！</p> <p>行政の方針と市民の声の、良い落とし所を見つけ、子ども達にとって最善の利益を保って欲しいと願います。</p>	<p>5に同じ</p>	<p>原案どおり</p>

7	<p>施設の老朽化など経費の問題などがあるかと思ひます。しかし、学校給食は教育的に大きな力があるのは、みなさんが認められているところでは、他に、災害時対策として地域を支えるところになり、ひとり暮らし老人や子ども食堂にかわる役割を果たしてくれる。なくてはならない存在です。狭義でなく、地域の宝物としてなんとか各学校に残してほしいと強く思ひます。</p>	<p>1に同じ</p> <p>給食室は、専門的な機器が多い上に、学校給食衛生管理基準に基づき衛生管理を行っているため、市民のみなさんにお使いいただくには適切ではない施設だと考えます。災害時などでやむを得ず調理場が必要となった場合は、家庭科室をご使用いただくことになると考えています。</p>	<p>原案どおり</p>
8	<p>給食の思い出は数十年を経た今も懐かしく思い出されます。多分、今も多くの児童にとって楽しみな時間であり、子どもの貧困が大きな社会問題になっている日本では、子どもの「食」を支える大事なものだと思ひます。</p> <p>少子化は貝塚だけの問題ではありません。「予算がないから」と手をこまねているわけにはいきません。国を動かすことも含めて、安心して子どもを産み育てられる環境をつくるのが本当に急がれているのではないですか？</p> <p>数年後には自校で調理できる学校は半分になりそうですね。</p> <p>A校からB校に運ぶには、調理されたものを別の容器に移すので、「温かいものが冷めないか」「衛生的に大丈夫か」など心配です。どんどん集中化して、民間委託になることをおそれます。</p> <p>小学校は災害時の避難所になっており、そこで温かい食事が作れるということは大きな強みです。</p> <p>給食も教育の一部、政府も少子化対策を迫られています。「予算がない」で片づけしないで、国にも協力に当たってほしいと切に要望します。</p>	<p>3, 7に同じ</p>	<p>原案どおり</p>
9	<p>貝塚市の給食は調理員さんたち、貝塚市ががんばっていて、こどもたちのよろこぶすばらしい給食だと思ひています。今回、こどもの少子化、調理場の老朽化でこれまでの自校方式が崩されるかもしれない話をきいて、驚愕しました。人数が少なくても食に関することはなんとかやりくりする、これは、人が生きていくためのテーゼだからです。</p> <p>学校のなかで、給食をつくるにおいがする、給食調理員さんたちが一生懸命自分たちの食事をつくってくれている姿を感じる事が成長期のこどもたちにとって重要だと思ひます。食べているこども、作り手の顔がわかるということが学校給食には必須です。300人という基準もよくわかりません。</p> <p>学校が避難所になっている現在、調理場も活用しなければならないと思ひます。</p> <p>老朽化してるのなら、直してください。</p>	<p>7に同じ</p> <p>食数300食は、国が示す2人以下で調理する小規模施設の基準であり、方針では自校方式に代わる給食の提供方法の導入を検討する基準としています。</p>	<p>原案どおり</p>
10	<p>小学校給食は、子どもの身近で食事の準備をしてくれる大人の姿が感じられ、安全で温かいものが食べられる。そのために、市が直接の責任を持つ自校直営方式が一番良いと思ひます。</p> <p>しかし、設備等の都合で難しい場合は、事前の策として親子方式を採用するのは仕方ないかと思ひます。ただ、利益確保になりがちな外部業者委託ではなく、現在の直営方式は維持してほしいと思ひます。</p>	<p>1に同じ</p>	<p>原案どおり</p>

11	<p>児童数減少と給食施設の老朽化の対応が必要であることは分かりますが、子どもたちに安全でおいしい給食を提供していくためには、現在の貝塚市で行なわれている自校直営の給食の提供を継続してほしいと考えます。</p> <p>子どもの数が少なくなっても、学校給食の意義は変わらないこと、食育、食の安全、アレルギー食への対応などの必要性も高まっており、それらに対応するためにも今の貝塚市の自校直営方式をできる限り継続してほしいと思います。</p> <p>また、災害時に学校が避難所となったときにも調理室があれば利用できることも考えると、防災の観点からも無くしてはならないのではないかと思います。</p> <p>必要な建て替えや改修を行ない、例えば中学校給食を親子方式で実施するなどしてでも、今の貝塚市の給食を継続していくことが少子化の中でも「子育てするなら貝塚で」と思う市民が増え、貝塚市の魅力となるのではないかと思います。</p>	71に同じ	原案どおり
12	<p>長年、本市が大切にしてきた作る人が見える、作る人との対話ができる学校給食の、自校・直営方式の存続を切に希望します。</p> <p>ここ数年来、教育に関する本市の進め方に大きな不安を感じています。市民プールの廃止、第五中学校の廃止等、子ども達を育てる学びの環境を縮小していく流れには、ますます危機感を覚えずにはいられません。特に近年、ICT教育の導入により、教師と子ども達の顔と顔がみえる、人と人のふれあいやすさによって感じる関係が、ますます減少しているように感じているのは私だけではないと思います。</p> <p>どうか、現状（現場）に即した初等教育の充実と環境整備に、より一層のご尽力をお願いいたします。</p> <p>方針全体をみると、ほとんど数字で表されていて、子ども達、親たちの姿そして学校・先生たちが見えません。児童数の減少傾向は随分以前から始まっていて、これまでの間どういう形で対応し、考えてきたのかその経過がわかりません。</p> <p>子ども達の数が少なくなって一人一人に対する対応が変わるのはおかしいです。</p> <p>施設の老朽化も想定内で、そのための様々な予定も構築できたはず。</p> <p>今後の給食運営方針で、「自校方式は、目の前で調理した出来立ての給食を子ども達に提供できるとともに、調理員と直にふれあえる良さがあることから、基本的には自校方式を継続したいと考える」とあります。</p> <p>学校は、いろんな学習をする場所でもあります。食育、人間関係の悲喜交々で学ぶ優しさや思いやり、しんどい時の助け合い、感謝の気持ちなど、個人個人で際限ない幅広い学びの可能性があります。今後も、学校で何を大事に学び、展開していくかを、教育委員会が一方向的に考えるのではなく、現場の先生方が子ども達や保護者、地域の方々と共に考えられる場が少しでも広げられるよう勧めていただきたいと思います。それには、先生方の業務軽減も必要ですよね。</p> <p>公共施設は、特に教育施設はなくさないでいただきたいです。地域の財産でもあります。人々が集える場にも活用できます。さらに情報発信の場にもなります。世代間交流で今後の活力を見出し、ひいては市全体の活性化にもつながります。</p> <p>特に調理ができる場所があるということは、今増えている子ども食堂、大人食堂の活用にもできます。さらに災害時の炊き出しなど、食事情の困難な際にも対応できる大事な拠点にも成り得ます。</p> <p>いつでも、どこでも、市全体の方策として活用できるよう目を凝らして職員一人一人の思いを結集して、市民とも協力関係を構築し、市民のためにより良い事業展開を進められるよう期待しています。</p>	71に同じ	原案どおり

13	<p>自校方式・直営方式での継続を切に望みます。食事を作って下さる方との顔の見える関係、料理や食材に関する知識への直接的なアクセス、調理の音や香りなどは、小学校生活という心身ともに大きく成長する時間空間のなかで、自分を支えてくれる食と、食に携わる人々やその仕事の「温度」を感じるかけがえのない存在であり、かけがえのない教育のひとつであると考えます。</p> <p>また、学校という、地域の防災拠点として大きな役割を果たす場所の設備としても、給食施設はまだまだ果たせる役割が潜在的に最も多い施設のひとつではないでしょうか。プロパンガスを確保しておくことで、災害時にも温かい食事やお湯を提供できる場所として、防災の観点からも非常に大切な役割を持つものと考えます。</p> <p>子どもの数が減少しているとはいえ、買い物や調理に不自由のある高齢者や、休み期間中の学童の子どもたち、現在子ども食堂や大人食堂を利用している層など、食事に関する住民サービスはまだまだ需要があると思います。学校の給食施設を、より広く、地域にも開かれた施設として、可能性を柔軟に模索することで、必要な建て替えや改修にかかる予算を確保し、こころかよう教育環境を維持していただけないものか、ご検討をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。</p>	7に同じ	原案どおり
14	<p>小学校の給食 自校・直営での継続を望みます。子どもの人口の減少と施設の老朽化は止められない事情とは思いますが、何か良い方法はないものか考えます。</p> <p>生徒数が減少する中で、当然空き教室も出てきます。施設の建て替えをしなくても利用できる部分ではないかと思えます。</p> <p>もし災害で炊き出しなど必要な場合は、避難場所でもある、学校で対応出来、地域への助けにもなる場所です。将来的に学校給食とその施設は長期休みの学童や、地域の子どもの食事の場になり、子ども食堂の場だったり、調理困難な高齢者の大人食堂だったりといろんな可能性と追求していける場ではないでしょうか。給食は地域の地産地消、雇用にもつながるものと考え、今後の継続を求めます。</p>	7に同じ	原案どおり
15	<p>私は現在79歳なので70年前の話になります。村の小学校の思い出のひとつはやはり「給食」そして「給食室（調理室）」です。市の「(1)今後の給食運営方針」に「調理員と直にふれ合える良さがある」とありますが、まさにその思い出です。</p> <p>調理員の方の調理服（当時はかっぱ着だったと思う。それに頭には三角巾）姿と調理室からのおいしそうなにおい、給食当番の日の調理員の方とのひと言ふた言のやりとり、正に「食育」でした。</p> <p>貝塚市は子どもの数が少なくなっても、何とか知恵と工夫で自校方式を貫いてほしいと思います。子どもは希望です。子どもたちの幸せと健やかな成長のためによりしくお願い致します。</p>	1に同じ	原案どおり